

【フランス語】

辞書案内

外国語の学習に辞書は欠かせない。辞書がなくても困らないように配慮した教科書もあるが、辞書は情報の宝庫であり、これを活用しない手はない。
フランス語の辞書はずいぶん数が増えたが、選択肢が多すぎるのも困りものだ。この紹介記事や担当教員の話を参考にして、自分に合った辞書を選んでほしい。

A. 学習辞典 重要語句を強調し、意味の近い英単語を添え、発音を一部カナ表記するといった特徴は、ほとんどの学習仏和に取り入れられている。改訂を重ねるうちにどれも似たようなものになったが、それぞれに微妙なちがいがあるので、実際手にとって見て決めるのがよい。

①三省堂『クラウン仏和辞典』（第7版）

学習仏和の草分け的存在。

②旺文社『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（第5版）

『ロワイヤル仏和中辞典』をもとにした学習仏和で、囲み記事も充実している。

③白水社『ディコ仏和辞典』（新装版）

現代の日常フランス語に焦点を絞ってある。言語の変化に敏感という意味では一歩抜き出ている。

④小学館『プログレッシブ仏和辞典』（第2版）

これまでの学習辞典の工夫をうまく取りこんだ新しい辞書。

B. 中辞典 学習辞典は導入のための配慮がなされているが、語彙数の面で物足りない。まとまった分量の文章を読むには不十分だ。中級以降のフランス語の授業には、中辞典以上の規模が必要になる。とくに将来フランス語の学習を続けようと思うなら、中辞典を最初から購入することも一考に値する。

⑤旺文社『ロワイヤル仏和中辞典』（第2版）

ロワイヤル・シリーズの中核となる辞典である。重要な文法ポイントがその都度注記されており、読み応えがある。成語は基本的に項目末に掲げられているが、語義ごとの説明文の中にもそれに近いものが数多く盛り込まれている。付録の CD-ROM は使いやすい。

⑥大修館『新スタンダード仏和辞典』

サイズから言うと学習仏和並。伝統のある辞典で格調が高く、その分取っ付きにくいかもしれない。重要単語については語義をいくつかのグループに分けてから説明を展開しており、非常に分かりやすい。文字が小さいのが難点か。

C. 大辞典 学習を始めるいまの段階で買う必要はないが、将来フランス語の文章を丁寧に読むさいには必要になるだろう。図書館に供えてあるものを取りあえずのぞいてみてはどうか。

⑦小学館『小学館・ロベール仏和大辞典』

仏和辞典としては最大の情報量をもつ。「表現モデル」などはフランス語で文章を書く際に役立つ。

D. 小辞典 小辞典は、フランス語をある程度学んだ人が外出先などで補助的に活用するためのものである。小辞典でフランス語を学ぶのは不可能なので、学習辞典ないし中辞典を購入したあと、2冊目として単語帳的・副次的に利用することを勧める。

⑧旺文社『ロワイヤル・ポッシュ仏和・和仏小辞典』（第3版）

携帯版小辞典。例文はなく、語彙集としての性格が強い。

E. 仏仏辞典 フランス語に慣れて来たら仏仏辞典を使ってみよう。知っている単語を確認するために引くことから始めるとよい。

⑨『プチ・ロベール』Petit Robert

中型の仏仏辞典としては最良のもの。仏和辞典のほとんどがこの辞典の成果を取り入れている。なお、初学者には、ハードカバーの大型版ではなく、ペーパーバックのポケット版（Le Robert de poche）をお勧めする。

⑩駿河台出版社『ラールスやさしい仏仏辞典』

外国人向けの仏仏辞典。まず例文があり、解説が後に続く。例文を暗記するつもりで読むとよい。

F. 電子辞書 英語以外の外国語辞典を含んだ電子辞書は新学期に合わせて新機種が投入される。さらには大学生協のオリジナル版も開発されている。以前は収録されている仏和辞典が学習辞典クラスのものしかなかったが、最近では『小学館・ロベール仏和大辞典』を搭載した機種も発売されている。

電子辞書のアプリケーションの効能は、何と言ってもその手軽さである。思い立ったらすぐに引ける。こまめに辞書を引くという習慣を身につけるには、電子辞書が向いている。しかし、電子辞書にも短所はある。たとえば、重要な単語（基本単語）ほど画面に説明が収まり切らず、目的の箇所に到達するまで延々とスクロールしなければならない。例文から用例を理解するためには紙媒体の辞書の方が圧倒的に便利である。その意味で、深く学習するには紙媒体の辞書を買うことを勧める。電子辞書は便利であるが、

どちらかというと単語帳的な感覚で使うべきものだろう。スマートフォンのアプリケーションも基本的には同じである。

真剣にフランス語とつきあう気があるなら、まず学習辞典から入り、中級に進んでから中辞典を買うと無理がないだろう。とりあえず単位だけ取れば十分だという考えなら、学習仏和一冊で事足りる。辞書と格闘することを通して語学をものにしようと思う人は、もちろん最初から中辞典を買ってがんばってもよいだろう。

辞典を買ったら、まず凡例に目を通し、使い方を覚えよう。そして付録に何があるかを確認しておこう。特に発音の解説は役に立つ。綴り字の読み方には法則があり、それさえ覚えればフランス語の発音は英語よりも簡単である。また巻末には多く動詞活用表が付いている。不規則動詞はこの表を何度も見て、書いて、覚えるようにしなければならない。

大学の図書館には様々な辞典が置いてある。自分で買わなかったものも利用できるということを覚えておいてほしい。

せっかく買った辞書も、買ったままで使われなければ意味がない。本棚に飾っておかず、たえず手にとりページを繰るようにしよう。語学はスポーツと同じで、とにかく（語学の場合は手や口を）動かすことで身につく。辞書はサッカーでいえばボールのようなものだ。それをどれだけ実際に扱ったことがあるか、それだけが語学の上達を決定する。1年生を終わった時に辞書が汚れていなければ問題だと思ってほしい。